

・雨でも休まず、264回、265回・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動 : 7月 5日(第一日曜日): 小原本陣の森・団地化を目指す、弁当持参  
\*ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、  
\*新潟大が当会活動を見学に来る
- ・定例活動 : 7月19日(第三日曜日): 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動  
\*一般むき: 参加費400円、主食・自分の食器、飲料水。  
\*お楽しみ: 晴れなら・・“若柳・鈴木農園・ブルーベリー摘み”  
.....
- \*注意事項1: 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ  
・服装: 汚れても良い服装、着替え・夏は黒色を避ける長袖、滑らない足元  
・持参: 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水
- \*注意事項2: 危険管理・救急体制: 森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### 地域との交流: 孫山景観ルートをつくる。

当会の定款4、「森林地域(町)の活性化を図る」を掲げている。入山させて頂く地域に対して何らかのお役に立ててこそ・・、との気持ちからだ。そう言う意味で小原町と当会は、極めて良好な関係にある。

小原宿活性化推進会議には六つの活性化プロジェクトがある。当会はその一つ、「孫山景観ルート開削班」のお世話役を引き受けている。5月31日(日)は、そのルートの開削踏査を孫山頂上までの全行程、約1400mを小原町の女性2人を含む人々12人と実施した。

前年の事業で「登山口から急登攀の“明和の祠”まで約300mの道づくりが済んでいるが、その先は尾根伝いに微かな踏み跡を辿って喘ぎ登る事になる。途中、急坂にジグザグ階段を付ける。平坦で見晴らしの良さそうな所は、その周辺を切り開きベンチを置く。薄暗い針葉樹林帯では、枝打ちと曲り木、欠頂木の伐倒をする・・・、などを相談しながらルート開削計画を立てて行く。

今期開削は、荒仕上げになるだろうが、来期追加補修では、“春は山桜、秋には紅葉など、でハイカーを楽しませよう、麓から尾根を見上げて「登って見よう」と思ってもらえるような道に仕立てる・・・”、などと夢も膨らむ。この日約4時間の踏査であったが、地域の方々とのような交流は、何物にも代えがたい貴重な時間だ。

数百年後の子孫が、21世紀初頭、「孫山景観ルート・孫山頂上」で、森林と都市住民が協力して作った道だとタイムカプセルのような何か、痕跡を見つけ出してくれるかも知れない。

## 小原本陣の森・定例活動 6月7日(第一日曜日)

暑さが少しずつ増す、曇り、 報告 石村黄仁

- ・中里山最終検査直前の仕上げ班7名
- ・孫山景観コース再設計と集約施業林道設計(酒井教授他、3名)
- ・NHK・TV録画のため、学生連合12名は“若柳・嵐山の森”へ。  
計22名参加

本日のメインメニューは、林道設計を専門にしておられる酒井教授(東大)のご指導で、集約施業のために林道をどのように考えるか。先ず、森の概要を知るために尾根を歩いてみる事とした。

孫山入口から祠までのご指摘は、

イ「この一帯は全体的に下方に向かってズリ下がっている現象があります。

間伐し陽の入るようにして根の張る低木を混ぜた方が良いでしょう。口、10年ほど前に間伐して素直に育っていますから、ここらでもう一度、やっておくと10年後には手頃な良材が期待できます。

ハ、祠は、この森の歴史を教えていますから保存を考えて下さい。

林道は尾根沿いに設営して、架線降ろしが効率的です。

いい塩梅に沢筋にシッカリした林道があります。林道を少し伸ばしたいですね。重機は、底沢経由で入れます。

尾根の諸所に風の通り道があるので伐る時は、その流れを見極めておいた方が良いでしょう。

防火帯対策として、常緑広葉樹が有効ですが大きく育っているのは短めに枝を伐り落して下さい。青木などは燃えにくいですが、椎・タブなども良いでしょう。

山全体が白亜紀(約1億5千万年頃)に造山した砂岩・互層頁岩のザレ山で、地形が複雑・急峻ですから林道は余り作らない方が良いでしょう。

全体的に標高は低いですから、尾根沿いに林道を付けると良いでしょう。景観コースを兼ねると言う事ですから、ヤマザクラや紅葉などを尾根脇に植えるのも良いでしょう。

沢上部には、美しいタマアジサイの大群落がありますが水が集まっているからです。手を入れる時は、十分に工夫が必要です。

沢上部、右斜面の杉は良く育ってる良木で、収穫期に入っています。

尾根から孫山を經由して、中里山作業現場に下った。現場では川田隊長他、10名の作業隊員が林床整理をしていた。青山ご夫婦がペアで汗している姿を見て酒井教授は、ビックリして、へ～、(多分、美人の青山奥さんにも意外性を感じたのかも)とか言いながら、お二人の作業振りを盛んに写真に撮っていた。基地に戻って、林道図を検討したが、終了時刻まで時間に余裕があったので、酒井先生にも丸太下ろし、皮剥ぎも“強要”して、良い汗をかいてもらった。

終礼時、酒井教授は「この森にも、この会の活動にも、いろんな可能性を感じました」とのお褒め?の言葉

森林知識皆無の石村は、東農大の田中万里子先生の林業機械講座を聴講した。それがご縁で酒井先生とお近づきになった



酒井先生に森を教わる

も頂きました。また「私は、林野庁の“現代林業”に連載執筆をしいるので報告記事にします」との事。帰路、駅前カドヤでの“カドヤ会議”にも参加して貰って一緒に、旨いビールをシコタマ痛飲した。

\* 新卒で三重県のマリンフーズ（商品開発部）に就職した滝沢（元学生）が、「午後の新幹線で三重に帰ります」と言って午前中だけ参加した。

## 若柳嵐山の森・定例活動：6月21日（第三日曜日）

“ 緑彩か！、小雨の活動日 ”

報告 伊藤小夜子

小雨にて、ベース広場の雨よけシート張りも手慣れたもの！。レインコートの多数の学生たちの参加。“雨でも休まず・・・”。本日、相模原市後援による「緑のダム体験学校」も同時開催。

参加者：一般参加21名、宮村教諭引率の望星高校23名、原田先生引率による麻布大6名、学生連合フォレストノバ6名、金山先生引率による“緑のダム体験学校・一日入校”は早稲田大学の33名、計89名。尚、学生連合フォレストノバは、8名が渋谷のNHKホール前広場の環境展に出展。

学生連合は、麻布大宮田ゼミと連携して「B地点」の見学。小雨の中、びしょ濡れになりながらも真剣にメモを取る。ノバ・斎藤学生（2回生）の森の説明も板についていた。「・・・だから、皆様のご協力が必要なのです！」と言う一言が共鳴する。参加者の原田ゼミの中司学生の曰く「FSC認証林として様々な活動が見えました」と言うのが嬉しい。

早稲田大学の「緑のダム体験学校」では、8年前に一次整備の終わった森の中で二次整備の間伐講習。実習に取り組んだ木が大きすぎて、悪戦苦闘。やっとのことで伐り倒し、3mに玉切りし、学生たちは皮を剥いで1cm程度の厚みの輪切りを思い思いに切り取って、ヒノキの芳香を楽しみに持ち帰った。

午前中、望星高校生は、学校で試みる“流しソーメン用“を伐り出した太竹をバックにガッツポーズする。午後は雨も上がって・・・、望星の森の中の体験は・・・、蜘蛛：足が長過ぎ。ミミズ：蛇並の大きさ、蚊：ばかデカ。森にいくる生き物の生命力の強さに驚嘆する。疲れた！  
また、酢・砂糖・酒で作ったペットボトルの罠に仕掛けた黄色い悪魔・雀蜂は、折り重なって全滅。死んでいるから触れるが、生きていたらトンデモナイ事になる。命さえ危ない。

雨の日だからしか、経験の出来ない貴重な体験のかずかず。終礼の3時頃には、空も明るくなって鳥のさえずりが響いていた。定例活動のこの日、活動後は会発足の12年目、法人にして第七期目の通常総会。



活動開始から12年目、法人にして7回目の通常総会は、6月の「若柳嵐山の森：定例活動終了後」、川田会員を議長に選出して、相模湖交流センターで開催し、全てを承認して有意義な総会となった。

### 第七期・通常総会の内容・概略

「活動の基本理念：森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない」を旗印に事業は、3本の柱：森をつくる環境性、都市とつなぐ社会性、森をいかす経済性を真剣に実践した一年であった。

#### 08年の主な活動

活動開始12年目の前半は、淡々と推移した。後半から期末にかけて金融危機と時を同じくして当会にも、何か地殻変動のような動きが感じられる。即ち、行政から当会に「林業行政を共に」と言う呼びかけがあった事。毎日新聞社（水と緑の地球環境本部）からの呼びかけによる「森林NPOの自立モデルづくり」。今の森林状況は、森林ボランティア活動でも戦力になると踏んだからの呼び掛けであろう。

#### ・08年度事業報告・収支決算

##### 収支決算

収入	9、466千円
支出	7、776
増減差額	1、704
前期繰入	4、179
次期繰越	5、883

#### ・09年度事業計画・収支予算

##### 収支予算

収入	17、913千円
支出	16、650
増減差額	922
前期繰入	5、883
次期繰越	7、146

#### ・08年度主な成果

- 1 中里山協力協約整備
- 2 孫山一部景観ルート開削
- 3 「緑のダム湘南の森」正式活動開始

#### ・09年度主な目標

- 1 神奈川県協働事業最終仕上げ年
- 2 相模原市協働事業開始年：集約施業
- 3 小原宿活性化推進会議との協働
- 4 毎日新聞社（国土緑推後援）との協働事業

\*活動予算のうち森林特定事業が急に膨らんだのは、その理由。特定事業が大きく膨らんだことだ。

\*突然に、1.9倍の事業量をはたしてこなせるかと言う問題だが近年、地域の事業者の仕事が少なくなって、廃業・倒産が増えている話を聞いた。森林整備作業をする事業者がいなくなれば、森林の荒廃は更に進む事になる。益率は悪くなるかも知れないが、事業者に業務委託を試みた。成功ではなかったが失敗でもない。今期、更に試みて、成功の道を切り開く。また、森林整備事業をボランティア活動だけで出来るわけがない。役割を分担して取り組む。

12年目の通常総会は、桜井先生・金山先生・宮田先生・谷田部先生など、素晴らしい指導者の同席を得て、集約施業の試み、森林NPOに自立、地域活性化を採択・確認して閉会した。

（石村記）

## ・活動開始12年目、今後はどのように向かうか。

1998年に活動を開始してこの10年、唯、ひた向きに現場活動に励んできた。凡そ、現場活動8割、広報活動2割の感じであった。現在当会が、それなりに社会的信用があるのは「雨でも休まず・・・」と現場を守ってきたからだと思う。森林に限らず周りのいろんな活動を見回しても、現場活動での実績を具体化していなければ、評価は低いように思われる。当会は今後とも、実践8割、8割の実践の中から得られたものを、2割程度のエネルギーを使って世に問う形(広報)を貫く計画だ。

現在、当会の取るべき重点事項は、次の4点に絞られる。

### 1 地域社会との信頼関係づくり。

特に小原本陣の森での「林地団地化・集約施業」の試みは、地域の信頼に裏付けられた共感を得なければ不可能である。小原町の人々との信頼関係づくりこそ、成否のカギとなる。若柳嵐山の森の奥畑地区とも、接点を探っている。

### 2 集約施業の具現化

森林の新しい施業形式として取り組む「集約施業」には、森林組合のような資金と組織的バックのない市民団体である当会には、至難な事である。まして月一回の活動という制限の中で、地域の支持を得るには根気との勝負となるが現状、極めて良好な関係にある。作業推進は事業者との協働で進める。

### 3 行政との協働態勢づくり

森林が公共的な存在であり、自然保護法・保安林法・水源管理法などで決められた法律下にあるから、これらを守りつつ行政(相模湖町・相模原市・神奈川県)の所管部署との密なる連絡と信頼関係づくりは重要である。

### 4 実践活動の中で得られた結果を報告し、政策提言までに持って行くこと。

当会はずでに、単に森林活動に“癒しを求める”団体ではない。森で得た新しい知見を報告し、森林政策に貢献しなければならない団体となっている、この意味で毎日新聞社から与えられた「森林NPOの自立モデル」になる事や、相模原市との交流は、最適の課題と言える。

- ・小原本陣の森：担い手育成、技術向上を目指しながら、林地団地化・集約施業を具現化する。
- ・若柳嵐山の森：都市と森林をつなぐ里山交流、楽しい森林活動の場作りを推進する。



## ・緑のダム・北鎌倉便り

報告：兼松まゆみ

現在は、月一度の活動を東慶寺でしておりますが、神奈川インストラクターの会員の板齋さんの指揮のもと、お仲間のインストラクターの方々も加わり、その時期に最もしなくてはならない作業中心に、整備活動をしています。

こちらの私有林は地域の誇る心の中心とも言える禅寺ですので、町の景観を守ったり、活性化させたりと、いろいろと心を砕いておられるグループとも繋がり整備できたものを、地域の特産品として年2回の「匠の市」にご披露して参りました。



4月より、お寺様が里山は炭で蘇るコーナーを、本堂横の宝物館入口で初めて下さり「緑のダム北鎌倉」の大きなテーマを、地主自らになって下さる事になったのです。これが地域に根付けば、最も私たちが望んだことと感謝をしています。

勉強にと学生連合フォレストノバ北鎌倉の活動に参加して下さった、神宮さん、廣石さん達が滝沢君のあとを継ぎ、活発に運営会などで丁々発止と意見を述べられている様子も頼もしく、嬉しくメールを読ませて頂いています。これからの時代は、かなり厳しい世の中になって行くと推察しています。その時まで世の中に何が大事なのかをしっかりと地に足をつけて考え、行動に移していける人を山は養成してくれていると実感しています。どうぞ、次へとバトンを繋ぎながら、日本の将来に大きく貢献して下さい。

板齋です。毎日バタバタしており作業結果のお知らせを失念してしまいました。6月9日(火)は竹林の今年の竹で邪魔なものをきりました。想像以上に沢山あり、殆ど1日作業になってしまいました。浄智寺がわのアヅマネザサの除去後を見ましたが、早くも新しいものが出てくるようです。作業参加者は滝沢、畑、新田、川上、板齋でした。なお、当日は「イワガラミ」、「イワタバコ」が見ごろでした。この2種は他のところでは見れない素晴らしいものです。

## ・緑のダム・湘南の森：現況報告

報告：佐藤 憲隆

2006年6月より活動を開始、3年になります。



背丈ほどの笹とアオキと蔦のジャングルをほぼ完全に刈り払い、不毛だった林床に豊かな草花がよみがえりました。2007年8月より、全国森林インストラクター神奈川会の有志が作業に参加、徐々にメンバーが増加し始めました。2009年からこれまでより1日作業日を増やし、第二金曜日と第四土曜日を定例作業日として活動しています。平均金曜日は5名、土曜日は10名程度のメンバーが作業

に参加しています。

本年4月より任意団体として、新しくスタートしました。当初の会員数は20名ほどとなります。対象地域の森は世代交代期にさしかかっており、老朽木の伐採と新たな植林によって、より生命溢れた森を再生させる時期に来ています。市民のための豊かな森というコンセプトで、果樹を含め里山タイプの楽しい森を目指したいと思っています。今年は、市民向けの観察会やイベントの実施を通じて、より多くの市民をインボルブする事を目標としています。

任意団体として発足出来た事で、平塚市の市民活動支援金を申請できるようになり先ず、補助金28万円を頂ける事となりました。これは今後の活動のための大きなステップとなります。日頃のお心遣いを感謝申し上げます。

## 第61回全国植樹祭かながわプレ大会2009 秦野会場 に参加して

大坪浩一

2010年春開催予定の第61回全国植樹祭に先立ち、かながわプレ大会が5月24日開催された、南足柄市と秦野市の2会場の内、秦野市の会場に参加した。あいにくの雨の中、約3000人の参加者が集まった。式典の前に、秦野会場では200人の公募者が記念植樹をした、杉林の中を植樹会場へ向かう泥道で話題の「山ひる」をみつけた。植樹はあらかじめ穴が掘って有り、そばに置いてあるイロハモミジ、クヌギ、ケヤキ、ホウノキ、コブシなどの苗木を高さの調整をしながら植え込む作業だった。幸い雨は小降りだったが、最後のグループとかで、植え残った苗木を全部植えたので、一汗かいてしまった。式典会場に移動する途中、サービス広場を通過したが、緑のダムのテントでは、積み木が広げられ、高い塔が出来ていた、石村氏、NOVAの加藤君、応援の畑山氏等は雨で少々暇のようだった。式典は前の会場(南足柄市)からの移動待ちで進行がもたついたが、和太鼓、ファンファーレ隊、みどりの誓いのあたりから動きが出てきて、県の環境大使白井貴子さんの話や歌はさすがプロ、一気に盛り上がった。合唱団の丹沢賛歌、特に丹沢アルプホルンクラブの演奏は雨の丹沢山麓に朗々と響き渡り感動した。松沢県知事始め各関係者の挨拶も理解できるものだった、大勢の関係者による植樹のイベントをはさみ式典は無事にお開きとなった。

サービス広場では42張のテントがならび各関係団体は趣向をこらして展示していた、PR関係が多かった、名産品販売や、手作り木製品の販売等もあったが、食べ物系が少なかった。アトラクションスペースでは「けん玉師」などのアトラクションが開かれていた。来年の大会に参加する際はもう少し展示を賑やかにしたいと感じた。畑山さん、石村さん、加藤君、お疲れ様でした。



## 小原本陣の森；材伐出

小原本陣の森は、約 1 億 5 千万年前に造山した白亜紀の地質から成っており互層頁岩からなっており、グザグザで崩れやすい。この森の入口部分には、中央高速道、JR 中央線、国道 20 号線が縦段になってに並んで走っている。万一、大きな地震でもあったら大山崩れをして大被害になる可能性が高い。そこで、土木事務所が砂防ダムを作った。その際、沢付近に植わっていた杉を伐採して廃棄すると言った事になったから、当会が貰い受けた。いい塩梅に活性化会議で「小原の郷」を建てる事になったから、この木をその用材にしようと運び出した。

## 喧喧愕愕の運営会

毎月第二金曜日は、定例運営会と決めて午後 6 時～8 時に会の運営について話し合っている。特に運営委員などは決めず会員なら誰でもが出席して意見を述べる事ができる。NPO は自由で柔軟な発想と行動が特徴で、雇用関係がないから上下関係がない。だから、言いたい放題の発言をする。時には、掴み合いにならんばかりの事も有るが、そこはそれ“まあまあ”と中を取り持つ仲間がいる。



元々が、善意無償の仲間たちだから、終わってしまえば何のシコリも残らない。

.....  
活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと.....  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : NPO 法人緑のダム北相模

事務局 : 154 - 0023 東京都世田谷区若林 3 - 35 - 9

発行人 : NPO 緑のダム北相模・運営委員会 : 03 - 3411 - 1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)

協働団体 : 神奈川県(政策部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県央地域県政総合センター) セブンイレブンみどりの基金、相模原市(市民協働推進課)  
毎日新聞社(水と緑の地球環境本部)

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京、東海大付属・望星高校、J F E メカニカル